神話伝説の山里

「高千穂郷（たかちほごう）」通信

241

令和5年2・3月
合併号

発行　宮崎県西臼杵支庁

県内初！林業労働災害レスキュー訓練開催

西臼杵支庁では、1月20日（金）に高千穂町の親父山周辺の森林と町武道館で、林業労働災害の発生を想定したレスキュー訓練を実施しました。県ではこれまで現場の巡回指導や研修の実施など事故発生を未然に防止する対策に取り組んできましたが、発生後の訓練は支庁による実施が初めてです。

西臼杵広域行政事務組合消防本部と県防災救急航空センターの全面的な協力を得て大がかりに行った今回の訓練には、厳しい寒さの中、管外からの参加者も含めて予想を超える153人もの林業関係者が集まり、事故が発生した際の対応に関心が高いことがうかがえました。

訓練を企画した井上 聡史 主任技師は「斜面で動けなくなった人を防災ヘリで救助する本番さながらの訓練でした。課題も見つかるなど得るものが多くあり、参加した方々も、もしもの時の対応をシュミレーションしていただくよい機会になったと思います。事故が起こっても、被害ができるだけ小さくてすむよう今後も取り組んで行きたいと思います」と話しています。

ヘリがケガ人を引き上げる
訓練の様子

3町立病院統合再編

3町長と河野知事が医師確保について意見交換

2月14日（火）に五ヶ瀬町役場で、知事と各地域の市町村長が意見交換を行う「円卓トーク」が開催され、令和6年4月1日に予定されている西臼杵郡の3町立病院の統合再編に向けた医師確保が、テーマのひとつとして取り上げられました。

まず、高千穂町の甲斐宗之町長が、「西臼杵郡の医療を長期的に存続させるため、3町立病院の統合再編について具体的な検討や調整に取り組んでいる。中山間地域では安定的に医師を確保していくことが課題であるので、医師のキャリア形成のための勤務先として選んでもらえるような研修のあり方などについて意見交換をお願いしたい」と提案しました。

日之影町の佐藤貢町長は、「人口減少が進む一方で、西臼杵郡では道路整備も進みつつあり、3町立病院が同じような医療を提供するのではなく役割を分担して機能を変えていくこととし、住民の皆さんに説明してきた。県の中山間地域対策における医療のモデルにもなっており、全国的にも注目されていると認識している。研修先としての受け入れを含めて医師確保に努めていきたいので協力をお願いしたい」と述べました。

五ヶ瀬町の小迫幸弘町長も、「医師確保は町長の大切な仕事であり、これまで大学の協力を得て確保してきた。今後は、受け入れる医療機関として積極的に大学と連携していくという姿勢が大事だと考えており、県の協力も得ながら取り組んでいきたい」と話しました。

３町立病院の統合再編に向けては、これまでも県から財政的な支援や高千穂町への職員の派遣を行ってきています。

河野知事は、「３町の取組は、消防やごみ処理をベースに病院を加えるという中山間地域の自治体連携のモデルになるものだと思う。県全体としては、宮崎大学や県医師会とも連携しながら、宮崎大学医学部の地域枠を拡充するなどして医師確保の取組を進めてきている。医師のキャリア形成では本人の希望が尊重されるので、県の支援策も活用していただきながら、西臼杵ならではの魅力ある環境づくりを進めていただきたい」と答えました。

西臼杵３町 県も力を合 地域共通の課題に取

人口減少が進むと、特に中山間地域では、将来、医療や教育、交通など生活に必要なサービスや機能の維持が難しくなることが心配されています。このような課題に対応していくためには、地元の自治体が連携し合い県も協力しながら取り組んでいくことが重要です。

九州中央自動車道の早期整備

3町長 がそろって九州地方整備局に要望

2月6日（月）に、3町長をはじめ西臼杵の関係者が、国土交通省九州地方整備局（福岡市）の藤巻浩之 局長に九州中央自動車道の整備促進を要望し、県も同行しました。

熊本県御船から延岡に至る九州中央自動車道については、熊本県区間では、令和5年度中に「山都中島西～山都通潤橋」間（10.4km）が開通する予定であり、九州自動車道との結接点である嘉島JCTから山都通潤橋までの23kmがつながることとなります。また、「山都通潤橋～蘇陽」間（約15km）は、新規事業採択時評価の前段階である計画段階評価が完了しており、令和4年度には、「山都通潤橋～清和」間（10.3km）が新規事業化されたところです。

これに対し、宮崎県区間については、「蘇陽～五ヶ瀬～高千穂～雲海橋」間（合計20.4km）はこれから事業が本格化していく段階にある一方、「平底～蔵田」間は未だ計画段階評価に至っていないなど、西臼杵地域における更なる整備促進は喫緊の課題です。

九州中央自動車道の整備促進に向けては、沿線の自治体や民間団体などで構成するいくつかの期成会がすでに存在し、機運醸成や国等への働きかけなど活動を行っていますが、今回は、3町長をはじめ西臼杵地域の関係者で、医療・防災・地域振興など地域住民の暮らしのためにも早期整備が必要であると藤巻局長に要望しました。

は一体となって

わせながら

り組んでいます！

高千穂高校の魅力向上

3町 でつくった委員会の取組が効果を上げる

高千穂高校は西臼杵郡唯一の県立高校ですが、入学者数が年々減少しています。このため、地域を挙げて同校の魅力向上を図ろうと、3町が一体となり、令和3年2月に「高千穂高校魅力向上推進委員会」が設置され、以来、委員会は同校と連携し、さまざまな取組を行っています。

2月16日（木）には、令和4年度の第2回委員会が高千穂高校 T-LABOで開催され、委員会の支援を受けて実施された学習塾による放課後のオンライン講義や高校教員による熱心なサポートなどが効果を上げ、本年の共通テストでは同校の国公立大学受験者の平均点が昨年から大きく伸び、全国平均を上回ったことなどが報告されました。また、同じく委員会の支援により、地域で働く魅力や地域の課題を生徒に知ってもらうために、西臼杵で働いている社会人を招き講演会が開催されたことなども報告されました。

人口減少が進む中山間地域では、県立高校は学びの場にとどまらず、地域の担い手の育成や活力のある地域づくりなど地域振興の核としての役割も担っています。西臼杵支庁としても3町や高千穂高校の取組に積極的に協力していきたいと考えています。

農泊再開に向けて 五ヶ瀬町で 農泊 研修交流会 開催！

3月6日（月）、五ヶ瀬町町民センターにおいて、県内各地で農泊に関わる関係者が出席し、本年度２回目となる農泊交流研修会（県中山間農業振興室主催）を開催しました。

農泊とは、旅行者が農山漁村地域に宿泊し、自然や文化、食材などの地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のことですが、農山漁村にとっては、所得向上のほか、地域外との交流や関係人口の創出、特色ある地域づくりにもつながります。しかし、3年間にわたり断続的に続いた新型コロナウイルス感染症拡大により、農泊の運営は困難を強いられてきました。

交流研修会では、（株）地域振興研究所の代表取締役 須川（すがわ） 幸（かずゆき）さんが講演した後、須川さんを交えて主な出席者が車座になって、コロナ禍での苦労話や再開に向けた不安、本業である農業との両立、後継者問題など共通の悩みについて互いに共感しながら話し合いました。

五ヶ瀬町夕日の里づくり推進会議の後藤（ごとう） 福光（ふくみつ）さんが、「農泊は、受け入れる側も元気になる取組。地域の子どもたちを元気にするためには、まず大人が元気な背中を見せないといけない」と励ますと、出席者皆がうなずき、今後も情報交換を行いながら農泊に取り組んでいこうと決意を新たにしていました。

日之影町の甲斐 喜夫さんが 宮崎日日新聞 農業技術賞 受賞！

今年1月に第65回宮崎日日新聞農業技術賞（果樹・加工部門）を受賞したマロンハウス甲斐果樹園代表 甲斐 喜夫（よしお）さんの受賞報告会が2月8日（水）に日之影町内で行われ、町功労者表彰や宮崎銀行ふるさと振興助成事業を受けたことも併せて報告されました。

甲斐さんは、50歳で役場を退職した後、くりの生産から加工・販売までの一貫経営に取り組み、今や、栗きんとん「栗九里（くりくり）」は県内外を問わず人気が高い主力商品です。また、最近では、地元産の梅やしいたけなどをつかった新商品の開発も精力的に手がけています。

このような甲斐さんの取組は、中山間地域のフードビジネスのモデルになっており、雇用創出はもとより、地元農家からのくりの収穫や農地の管理の引き受けを通じて、高齢化が進む中で、地域農業・農地を維持し、日之影町の特産品であるくりの産地づくりにも大きく貢献しました。

町内外から受賞報告会に集まったたくさんの出席者から祝福を受けると、甲斐さんは、「受賞は従業員や消費者の皆さんのおかげです。これからも6次産業化を通じて、明るく元気のある村づくりに貢献していきたいと思っています」と述べていました。

宮崎の魅力を世界に発信！ G７宮崎農業大臣会合 の開催に向けて

令和5年4月22日（土）、23日（日）に本県で開催されるG7宮崎農業大臣会合に向けて、準備が進められています。

高千穂高校からは、生産流通科2年 平木（ひらき） 優亜（ゆあ）さん（五ヶ瀬中学校出身）が会合に向けた「高校生の提言」のメンバーに選ばれました。「高校生の提言」はG7宮崎農業大臣会合協力推進協議会が推進する取組で、県内の高校生が未来の食や農業について議論を交わして提言をまとめ、会合で世界に向けて発信しようというものです。現在、メンバーとなった高校生が集まりグループ協議などが行われています。平木さんは「農作業ひとつひとつの大切さと大変さが知られていない。提言をきっかけに、農業について高校生に関心を持ってもらえたらいいと思う」と話しています。

G7宮崎農業大臣会合に向けては、1月24日（火）、25日（水）にかけて海外メディア向けのプレスツアーが実施されました。西臼杵地域の神楽や棚田、地元の特産品を扱う企業などの視察が行われ、その様子が海外のテレビや新聞で報道されました。

世界が宮崎の農業に注目するこのチャンスを生かして、県では、西臼杵地域をはじめ本県が誇る食や恵まれた自然、それを活かした農業や農村に息づく文化を、世界に向けてしっかりと発信していきます。

西臼杵観光推進連絡協議会 公式Instagram
発行／宮崎県 西臼杵支庁　編集／総務課
〒882－1101　宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井22
TEL 0982(72)2181　FAX 0982(72)3760
神話伝説の山里 「高千穂郷（たかちほごう）」通信